

I 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されています。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
- d 解答通りという条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

- a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。
 - b 脱字。
 - c 文末の句点の脱落。
 - d ※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
※その他不適切と判断せざるをえない箇所。
 - e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。
- ※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

□ (50点)

問一 各2点 解答通り

(A) 懸念 (B) 遂行 (C) 措置 (D) 盤石 (E) 近似

問二

■形式上の不備

・文末表現は要素E参照

基準 配点10点

■模範解答例

A B C D

海軍力を競い合っていた三大国の一国が、他の一国の支援を借りることで有利な数的状況を作り、特定の

一国の強大化を阻んで、勢力の均衡を生み出そうとしていたということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…六十字～八十字 二十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「海軍力を競い合っていた三大国の」…2点

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「一国が、他の一国の支援を借りることで」…3点

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「有利な数的状況を作り」…3点

・「数的」に相当する説明を欠く場合は2点。

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「特定の一国の強大化を阻んで勢力の均衡を生み出そうとしていた」…2点

*「勢力の均衡を生み出そうとしていた」に当たる説明はなくても可。

・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「…(という)こと」という文末表現が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

問三

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点15点

■模範解答例

A 一八世紀初頭にフランスのルイ一四世が覇権的な地位を求めようとしたが、ヨーロッパ全体を支配する普遍的な帝国の出現を警戒した。複数の大国がイギリスを中心とする対仏大同盟を結び、それを阻止するための

C D

戦争や交渉が行われるなかで生まれた。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百字～百二十字 四十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「一八世紀初頭にフランスのルイ一四世が覇権的な地位を求めようとした」…4点

・「覇権的地位の追求」に相当する説明に2点、「一八世紀(初頭)」「フランス(のルイ一四)」に各1点が目安。

- ・全体として説明が曖昧であると判断される場合は2点。

■要素B「ヨーロッパ全体を支配する普遍的な帝国の出現を警戒した」…4点

- ・「ヨーロッパ全体を支配する」に1点、「普遍的な帝国の出現を警戒」に3点が目安。
- ・全体として説明が曖昧であると判断される場合は2点。

■要素C「複数の大国がイギリスを中心とする対仏大同盟を結び」…4点

- ・「イギリスを中心とする」に1点、「対仏大同盟を結び」に3点が目安。
- ・全体として説明が曖昧であると判断される場合は2点。

■要素D「それを阻止するための戦争や交渉が行われるなかで生まれた」…3点

- ・「戦争や交渉」を「合従連衡」という語で説明している場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E 「秩序観」の生まれる「プロセス」の説明として妥当な文末形式であると判断できれば許容。

不適切な形であると判断される場合は1点減点。

問四

■形式上の不備

- ・文末表現は要素H参照

基準 配点 5点
1点

■模範解答例

A 多数の国家が分立する中で、他国の軍事力増大に対抗し、自国の安全と強大化を目指すとする人間の本性が「嫉妬深い競争心」であり、それにより、特定の国家の強大化を阻むために国家同士が互いの動向を監視し合い、支配的勢力に対抗するために同盟を生み出すから。
B
C
D
E
F
G

■採点方法…各要素単独採点

* 答案中に「嫉妬深い競争心」という語はなくても可。

■字数…百字〜百二十字 四十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「多数の国家が分立する中で」…1点

■要素B「他国の軍事力増大に対抗し」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「自国の安全と強大化を目指す」とする」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「人間の本性」…3点

- ・「嫉妬深い競争心」が「人間の本性」でうるといふ説明が答案中にあれば可。ここは3点か0点。

■要素E「特定の国家の強大化を阻むために」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「国家同士が互いの動向を監視し合い」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G「支配的勢力に対抗するために同盟を生み出す」…3点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素H「…から…ので」という文末表現が原則。理由説明の答案として不適切な形であると判断される

場合はマイナス1点。

□ (50点)

問一 各2点 解答通り

(A) 匿名 (B) 鼓舞 (C) 顕著 (D) 忠誠 (E) 幕藩

問二

■形式上の不備

・文末表現は要素G参照

基準 配点18点

■模範解答例

A

ネーションの構成員は互いの直接的な認知や交流がなくても、国民共同体という同一の均質空間に属してい

C

るといふ感覚を共有している。また、小説という均質空間にも互いに認知し合う可能性のない登場人物が存

E

在している。こうした抽象的な均質空間の成立には、それを外部から捉える超越的視点が不可欠であり、そ

F

の視点が社会的に実在し始めた時期にネーションと小説が生まれたから。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…百八十字 八十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「ネーションの成員は互いの直接的な認知や交流がなくても」…3点

- ・「ネーション」は「国民(共同体)」でも可。
- ・「認知」「交流」は「いずれか一つあれば可」。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「国民共同体という同一の均質空間に属しているといふ感覚を共有し」…3点

- ・「国民共同体」は「ネーション」でも可。
- ・「国民共同体」が「均質空間」であるといふ説明を欠いていたり、説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「小説という均質空間」…2点

- ・「小説」の中にも「均質空間」が存在することの説明を必ず含んでいること。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「互いに認知し合う可能性の亡い登場人物が存在している」…3点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「抽象的な均質空間の成立には、それを外部から捉える超越的視点が不可欠であり」…4点

- ・「均質空間」は「抽象的である」といふ説明に2点、「外部」の「超越的視点が「不可欠」といふ説明に2点が目安。「抽象的」「外部」といふ説明を欠く場合はそれぞれ1点とする。
- ・全体として説明が曖昧であると判断される場合は2点。

■要素F 「その視点が社会的に実在し始めた時期にネーションと小説が生まれた」…3点

- ・「超越的視点」の生成と、「ネーション」「小説」の登場が同時期であることが読み取れれば可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素G 「…から…ので」という文末表現が原則。理由説明の答案として不適切な形であると判断される

場合はマイナス1点。

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素E参照

基準 配点10点

■模範解答例

A 友人や親戚といった 互いを十分に意識できるようなメンバー間の 親密な関係のネットワークによって成
B
り立ち、メンバーの生活と意識をトータルに規定する共同体である。
D C

■採点方法…各要素単独採点

■字数…六十字～八十字 二十九字以下のは全体不可(0点)

■要素A「友人や親戚といった」…1点

■要素B「互いを十分に意識できるようなメンバー」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「親密な関係のネットワークによって成り立ち」…3点

- ・「親密な」は「直接的な」などでも可。
- ・「親密な関係」に2点、「ネットワーク」に1点が目安。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「メンバーの生活と意識をトータルに規定する共同体」…4点

- ・「共同体」はなくても可。
- ・「生活」「意識」「トータルに」のいずれか一つを欠く場合は3点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は2点。

■要素E 「『共同体』の在り方」を説明した答案の文末形式として妥当であると判断できるなら許容不適切な形であると判断される場合は1点減点。

問四

■形式上の不備

- ・文末表現は要素F参照

基準 配点1点

■模範解答例

A | 学問的観点からすると、ネーションやナショナリズムは近代の産物に他ならないが、ネーションのメンバー | B |
D | やナショナリストは自分自身の歴史的深さへの強い執着を持ち、その起源を悠久の古代に見ようとする | E |
C | ということ。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…八十字～百字 三十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「学問的視点からすると」…2点

- ・「学問的」は「客観的」でも可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素B「ネーションやナショナリズムは近代の産物に他ならない」…3点

- ・「ナショナリズム」はなくても可。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素C「ネーションのメンバーやナショナリストは」…2点

- ・「ネーションのメンバー」と「ナショナリスト」に各1点が目安。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素D「自分自身の歴史的深さへの強い執着を持ち」…3点

- ・「歴史的深さ」に相当する説明を欠く場合は2点
- ・「執着」「固執」といった意味の説明を欠く場合は2点。
- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素E「その起源を悠久の古代に見ようとする」…2点

- ・説明が曖昧であると判断される場合は1点。

■要素F「…(という)こと」という文末表現が原則。不適切な形であると判断される場合は1点減点。

★2022年度第2回阪大本番レベル模試（人外法経）

目（古文『九州の道の記』）採点基準 ※50点満点

問一 傍線部について、なぜ作者はそうにしたのか、本文に即して説明しなさい。

基準 配点 10点 採点方法 各要素単独採点 字数 指定なし。

〔傍線部〕 童一人供し、あたりの島に上がりて、こなたかなた見歩きけれ

〔模範解答〕

A2 旅の疲れか、 B2 眉の上のあたりが重く感じられ、 C2 気が塞ぎ、 D1 波に漂う舟の

中においても、 C 気が晴れずうっとうしいばかりなので、 E3 少し気持ちを休めるのがよいだろうと考えたから。

〔ポイント〕

要素 A 【2点】 旅の疲れか、

※「旅の疲れ」の意があればよい。

※「旅の」の意がない「疲れ」は【1点】。

要素 B 【2点】 眉の上のあたりが重く感じられ、

※「眉の上のあたりが重い・まぶたが重い・眠い」などの意があればよい。

要素 C 【2点】 気が塞ぎ、 気が晴れずうっとうしいばかりなので、

※「気が塞ぐ・気が晴れない・うっとうしい・わずらわしい・不快・気分が悪い」等の意があればよい。「疲れ」（要素 A）以外の表現でなくてはならない。

要素 D 【1点】 波に漂う舟の中においても、

※ A の「旅」が「船旅」となっている場合もよしとする。

要素 E 【3点】 少し気持ちを休めるのがよいだろうと考えたから。

※「気持ち（心）を休めようとしたから」の意があればよい。

※「気持ち（心）を」がない「休もうとしたから」は【2点】。

問二 傍線部について、言葉を補って、わかりやすく現代語訳しなさい。

基準 配点 4点 採点方法 各要素単独採点（Aは条件あり） 字数 指定なし。

〔傍線部〕

(A2)

B2 恨むべき年齢ならねど

〔模範解答〕

A2 七十歳過ぎというのは、

B2 死が悔やまれるべき年齢ではないけれど、

〔ポイント〕

要素 A【2点】 (補い) ↓ 七十歳過ぎというのは、

※ Bが0点の場合は得点できない。(誤字等の減点で0点の場合は得点できる)

※ 「七十は」の意があればよい。

要素 B【2点】 恨むべき年齢ならねど ↓ 死が悔やまれるべき年齢ではないけれど、

※ 「死が悔やまれる(惜しまれる)歳ではない・死を恨む歳ではない・死んでもしょうがない歳だ」等の意があればよい。

※ 右の意はあるが、文末が逆接(〜けれど、〜が等)になっていない場合は【1点】。

問三 傍線部の和歌について、「人」を本文中にある五字以内の別の語句に置き換えて、現代語訳しなさい。

基準 配点 6点 採点方法 各要素単独採点 字数 指定なし。

〔傍線部〕

A1 なき人の B1 手づから C1 植ゑし草木ゆゑ D1 庭も籬も E2 むつまじきかな

〔模範解答〕

D1 庭も垣根も E2 親しみ深く感じられることだなあ。
A1 亡くなった坊の主が B1 みずから C1 植ゑた草木であるから、

〔ポイント〕

※「この庭の草木は」に相当する表現の有無は不問。

要素 A【1点】 なき人の ↓ 亡くなった坊の主が

※「人」は「棒の主」に置き換えられていなくてはならず「坊主・僧」等、他の語になっている場合は×。

※「亡くなった・今は亡き」等がない場合は×。

要素 B【1点】 手づから ↓ みずから

※「自分で」等でもよい。

要素 C【1点】 植ゑし草木ゆゑ ↓ 植ゑた草木であるから、

※「草木」は「草・木・植物」等でもよい。「植ゑた」が過去になっていない場合は×。「から」は「ので・ため」等でもよい。

要素 D【1点】 庭も籬も ↓ 庭も垣根も

※「垣根」は「垣」でもよい。「籬」のままは×。「庭」か「垣根」の片方しかない場合は×。

要素 E【2点】 むつまじきかな ↓ 親しみ深く感じられることだなあ。

※「親しみが感じられる・親しみ深い・懐かしい」等十詠嘆「くなあ・くよ」で【2点】。詠嘆がない場合は【1点】。

※右の意はないが「素晴らしい・趣深い」等プラスの意の評価があり、詠嘆「くなあ・くよ」もある場合は【1点】。詠嘆がない場合は×。

問四 傍線部について、「この」と「さ」の内容を明らかにしつつ、わかりやすく現代語訳しなさい。

基準 配点 6点 採点方法 各要素単独採点 字数 指定なし。

〔傍線部〕

A2

作りなさは、

B2

この外のことは

C2

さもありません。

〔模範解答〕

A2

あえて作れば、

B2

この石の上に生えた松以外のものは

C2

現状の庭のようにするこ

ともできるだろう。

〔ポイント〕

要素A【2点】 作りなさは、 ↓ あえて作れば、

※「あえて（して）・無理して・人間の手で・人工的に・作為的に）作れば」の意があればよい。

※「あえて（して）・無理して・人間の手で・人工的に・作為的に）」の意がない場合は、【1点】。

要素B【2点】 この外のことは ↓ この石の上に生えた松以外のものは

※「石の上の松以外は」、もしくは「松が立つ石以外は」の意があればよい。「もの」は「すべて・草木」等でもよい。

※「石の上の」の意がない「松以外は」は【1点】。「石以外は」は×。

要素C【2点】 さもありなん。 ↓ 現状の庭のようにすることもできるだろう。

※「現状（今）の庭のようにすることもできるだろう・作れるだろう・再現できるだろう・できるだろう」等の意があればよい。

※ possible の意がない場合、推量の意がない場合は、それぞれ【マイナス1点】とする。

問五 傍線部について、なぜ作者は「目覚むる心地」になったのか、本文に即して説明しなさい。

基準 配点 6点 採点方法 各要素単独採点(A・Dは条件あり) 字数 指定なし。

「傍線部」 目覚むる心地す

「模範解答」

A1 深い朝霞の中から、B2 雁の声に似た唐櫓の音が聞こえ、C2 舟人が何か歌いながら舟を漕いで来たのが、D1 たいそう趣があったから。

「ポイント」

要素A【1点】 深い朝霞の中から、

※BもCも0点の場合は得点できない。(誤字等の減点で0点の場合は得点できない)

※「霧の中から・霧の中で」等の意があればよい。

要素B【2点】 雁の声に似た唐櫓の音が聞こえ、

※「雁の声に似た唐櫓の音が聞こえ」の意があればよい。

※「雁の声に似た」がない場合は【1点】。

要素C【2点】 舟人が何か歌いながら舟を漕いで来たのが、

※「舟人の歌声が聞こえ・歌いながら舟を漕いで来て」の意があればよい。「歌声・歌う」の意がない場合は×。

※「舟人」がなく「歌声(歌うの)」がある場合は【1点】。

要素D【1点】 たいそう趣があったから。

※BもCも0点の場合は得点できない。(誤字等の減点で0点の場合は得点できない)

※「趣がある・風情がある・すばらしい・感動した・良かった」等の意があればよい。

問六 傍線部について、「彼」の内容を明らかにしつつ、わかりやすく現代語訳しなさい。

基準 配点 6点 採点方法 各要素単独採点(条件あり) 字数 指定なし。

〔傍線部〕 彼が身に生れたらましかば、いかがせん

〔模範解答〕 **A3** もし **〔自分が〕** あのだん師の身の上に生まれていたならば、 **B2** どうするだろうか、

C1 つらくて堪えられないだろう。

〔ポイント〕

要素 **A** **〔3点〕** 彼が身に生れたらましかば、 ↓ もし **〔自分が〕** あのだん師の身の上に生まれていたら

※ 「だん師(浦人)」に生まれていたら(生まれたら)の意があればよい。

※ 「だん師(浦人)」が「船頭・水夫」等、また、「海士・海人」等になっている場合は **〔2点〕**。

※ 「だん師(浦人)」が間違っているが、「あのだんの上に生まれていたら(生まれたら)」の意がある場合は **〔1点〕**。

※ 「生まれていたら(生まれたら)」が「なっていたら(なったら)」になっている場合は **〔マイナス1点〕**。

※ 「だん師(浦人)」の様子形容である「粗末な家に住む・岩に耳を当てて体に砂につけて寝ている」等の有無は不問。

要素 **B** **〔2点〕** どうするだろうか、

※ 「どうするだろうか・どうしてだろうか・どうしよう」等があればよい。

要素 **C** **〔1点〕** つらくて堪えられないだろう。

※ 「つらいだろう・たえられないだろう」等があればよい。

問七 傍線部の和歌について、「この海の音」の内容を本文に即して具体的にしながら、わかりやすく現代語訳しなさい。

基準 配点 12点 採点方法 各要素単独採点
字数 指定なし。

〔傍線部〕

A2 所せく B2 袖ぞ濡れける C4 この海の昔をかけし D2・E2 波の名残に

〔模範解答〕

A2 余すところなく B2 私の衣の袖は濡れ尽くしたことですよ。 C4 かつてこの海の戦いで、

安徳天皇や平家一門の人々が苦しい思いをし、海に沈んでいった D2 様子を思い起こして悲しむ私の涙と、 E2 その昔の海の波の名残のために。

〔ポイント〕

要素 A【2点】 所せく ↓ 余すところなく

※「濡れないところもなく・どこもかしこも・そこいら中・所狭しと」等の意があればよい。

※右の意はないが、「たいそう・ひどく」等程度が甚だしいことを表す表現がある場合は【1点】。

要素 B【2点】 袖ぞ濡れける ↓ 私の衣の袖は濡れ尽くしたことですよ。

※「袖が濡れた」＋詠嘆「くなあ・くよ」があればよい。詠嘆がナイ場合は【1点】。

要素 C【4点】 この海の昔をかけし ↓ かつてこの海の戦いで、安徳天皇や平家一門の人々が苦しい思いをし、海に沈んでいった

※「安徳天皇（安徳帝）」・「平家（平家一門・平家一族）」があれば、それぞれ【1点】、計【2点】。

右の項目で【1点】か【2点】を得ている場合、さらに「苦しんだ」・「海に沈んだ（滅びた）」があれば、それぞれ【1点】、計【2点】。

要素 D【2点】 波 ↓ 様子を思い起こして悲しむ私の涙と、

※Bの「袖が濡れた」の原因として「涙」が説明されていればよい。

※「涙」はあるが、「袖が濡れた」の原因として説明されていない場合は【1点】。

要素 E【2点】 波の名残に ↓ その昔の海の波の名残のために。

※Bの「袖が濡れた」の原因として「昔の波の名残・昔の波」が説明されていればよい。

※「昔の波の名残・昔の波」はあるが、「袖が濡れた」の原因として説明されていない場合は【1点】。